

# 多様化の先にみる、これからの消費



その参

## 今のわたしに暮らしを合わせる



「住」のプロ  
松山 真介氏

一級建築事務所としてフルオーダーのリノベーション事業を手掛ける、リノベエステイ代表。中古建築の再生、既存住宅市場拡大のためのさまざまな活動に携わり、メディアへの出演や講演も積極的に行う。家づくりへの意識の普及で実現したいのは、「普通に幸せな世の中」。

”家に合わせた“生き方から”家を合わせる“発想へ

「家は、人生で番高価な一度きりの買い物と想っていませんか？いったん購入すれば、35年など長期ローンを組んで少しずつ支払っていくのが一般的な日本の住宅事情において、家を軸にその後の人生を設計していく、つまり「家に合わせた」生き方が当たり前になっていきます。

しかし、そこに暮らしていく私たちの生活は、家族構成はもちろん、生活リズム、年齢など常に変化していきます。自分が数十年後、どんな生活をしているか、どんな機能や装いを住まいに求めているかは未知数です。

◎家は変化しなくて大丈夫？

そうした中、新築物件を購入した人の約7割が、一度もリフォームなどをせず、そのまま住み続けているとい

うデータがあります（リクルート住宅総研）。本当は、常に変化している私たちの間に、家を合わせて、より住み心地のいい暮らしがおくれたら最高ですよ。

購入時は子育て世代、ローン完済後はシニア世代なら、理想の住まい像は時々違って当然です。子育ては郊外でのびのびと、定年後はアクセスの良い街中で手入れのしやすいコンパクトなマンションを望むこともあるでしょう。まずは、住まいを「変化」させていくという発想をもってはどうでしょうか。

”暮らしと向き合い、今の自分にフィットする家を”

◎住まいを「つくる」時代に

「こんな家だったら、もつちよっと快適なのに……」という気持ちは誰しも抱くものですよね。子どもの成長とともに



に部屋数を増やし、巣立つたら壁を取り除いてリビングを広くする、定年後は趣味部屋をつくらせてシニアライフをエンジョイするなど、家の形は変えられます。また、人の好みや似合う装いも変わるもの。床の材質を無垢材やタイルにしたり、壁のデザインや色を変えるだけでも、雰囲気一新された自分好みの空間に近付きます。住まいを最大限に活用することで、心と体にフィットする快適さを追求することができるとは思います。

完成した物件の中から選んで「買う」のも楽しいのひとつですが、自分の理想ぴったりの家にもぐり合ってみて探すほかに、自分の心に響く住まいを「つくる」ことができる時代です。最近では、賃貸物件にも取り入れられるDIY（日曜大工）が流行するなど、家づくりの楽しみの幅が広がっています。ずっと同じ内装や間取りの家になんともなく住むよりも、今の自分や暮らしと向き合い、求める空間や住まいのあり方をしっかり意識してみましょ。

◎一生を考えて資産配分を

近年では、消費者価値観の多様化から、新築以外にも、安く中古物件を購入して自分好みにリノベーションするなど、住まいの選択肢も豊富です。

住宅資金を、一度の購入時に全額かけることもできますが、同じ家にずっと住み続けられるとは限りません。将来、住み替えたり、リノベーションをすることも想定しながら上手に資産

配分すれば、ライフステージとともに変化する家を2度、3度楽しむことが可能です。

日々食べるものや着るものを選ぶように、住まいに興味をもってより密接に関わることができれば、私たちの毎日をそばで支える「家」をもっと身近に感じることもできるはず。今の自分、今の暮らしを反映した住まいとともに、心豊かな日々を過ごしていきたいましょ。

FFGへ一言

リノベーションによる中古物件の活用は、地方の再生、つまりは「まちづくり」に大きな繋がります。その実現には、地域経済を支え、人々と住まいの関係にも密接に関わる銀行の力が不可欠ですので、各自治体との連携などにも引き続き注力してほしいですね。

